

「アルメニア使徒教会付属博物館保存修復室機材整備計画」 完了式典

2026 年 10 月 2 日、草の根文化無償資金協力の枠組みによる「アルメニア使徒教会付属博物館保存修復室機材整備計画」の完了式典が、アルメニア使徒教会付属博物館において開催された。

式典には、穴澤葉子参事官、ナタン・ホヴァニシヤン大司教、ムシェグ・ババヤン主教、アソギク・カラペチャン神父（博物館長）、ヤコビヤン AGBU アルメニア基金代表のほか、アルメニア国内の博物館及び文化機関の関係者が出席した。

日本政府は、アルメニア使徒教会付属博物館が所蔵する文化遺産の保存・修復を支援するため、同博物館の保存部門に必要な機材を整備する目的で、上限 90,767 米ドルの無償資金協力を供与した。保存環境の改善により、現在収蔵庫に保管されている美術品を適切に保存・修復することが可能となり、より多くの作品を一般公開及び展示できるようになるとともに、アルメニア国内外から大聖堂を訪れる人々をより多く迎え、博物館の来館者数の増加にも寄与することが期待される。

式典は、穴澤参事官、ナタン・ホヴァニシヤン大司教及びヤコビヤン AGBU アルメニア基金代表によるテープカットで始まった。続いて、アソギク・カラペチャン神父（博物館長）が来賓を歓迎し、日本政府及び在アルメニア日本国大使館による支援に謝意を表した。その後、穴澤参事官、ヤコビヤン AGBU アルメニア基金代表及びナタン・ホヴァニシヤン大司教が挨拶し、本計画に携わった関係者に祝意を表するとともに、アルメニアの文化遺産及びアイデンティティを保存することの重要性を強調した。

挨拶の後、アソギク・カラペチャン神父は来賓を保存修復室見学に案内し、本計画の枠組みで整備された機材を紹介した。



テープカット



アソギク・カラペチャン神父（博物館長）によるスピーチ



ナタン・ホヴァニシャン大司教による挨拶



ナタン・ホヴァニシャン大司教と穴澤参事官



本計画によって供与された機材